

平成 28 年 12 月 15 日
学校だより
18 号

きずな

北九州市立洞北中学校
〒808-0121
北九州市若松区
大字竹並 3087 番地 1

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

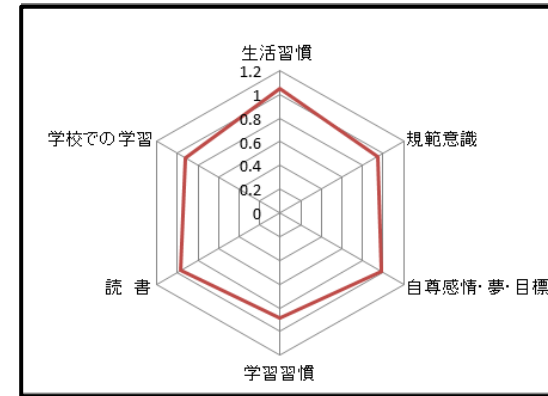
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語A	全国平均正答率をやや下回っていたが、記述式の問いの正答率が全国平均正答率より高いことから書く能力が向上していることがわかる。	下回っている
国語B	書く読む能力が高く活用する力が向上している。全問いで無回答率が低く国語に関する意欲関心が高いことがわかる。	上回っている
数学A	数量の関係を捉え文字式で表す問いと空間図形に関する問いの正答率が低い。数学的な技能、図形などに関する基礎力をつける必要がある。	下回っている
数学B	関数や図形に関する問いの正答率が低く数学的な技能、図形などに関する基礎力を養うとともに数学に関する見方や考え方を高める必要がある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- 基本的な生活習慣は確立されている。
- 朝読書の継続的な取り組みで読書が好きな生徒が多く読書量も豊富である。文章表現や読解力の向上など活用する力の向上に役立っていると考えられる。
- 宿題など与えられた課題の取り組みは行うが主体的、計画的に家庭学習に取り組む習慣付けが必要がある。
- 将来の夢や希望をもっている生徒は全国と同じくらいいる。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 全校で取り組んでいる授業のながれのスタンダード化「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を継続して取り組む。
- 生徒の話し合い活動を積極的に授業に取り入れる。友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする機会を増やし生徒の主体的な学び（アクティブラーニング）につなげる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習において宿題などの課題を出す取り組みは継続的に行っていく。また生徒が計画的、自主的に学習に取り組めるよう自主学習ノートの活用を進める。
- 小中連携の観点から、小学校6年生に対して春休みの宿題や自主学習ノートの取り組みを継続的に行う。